

木とキノコの関係

秋はキノコの季節です。キノコは漢字では「木の子」と書きます。
キノコは木の子供なのです。木とキノコは共生関係にあります。

松茸はアカマツの根本にしか生えません。またマイタケはミズナラの根本にのみ生えます。

松茸は赤松の木の根の細根(さいこん)と言われる細い根っこに菌糸を伸ばして成長していきます。

赤松の減少や日本における山間部の自然環境が年々変化していくため、国産の松茸が育たなくなってきました。
松茸は赤松があれば生えているということでもないのです。

生えている場所にはちゃんと、松茸ならではの条件があります。

その4つの条件とは

条件1: 時間帯……松茸狩りは、早朝がおすすめです。枯葉が露で湿っているので松茸を発見しやすい！

条件2: 3つの良い……日当たりが良い、水はけが良い、風通しが良いなど3つの良い条件がそろっていて雑菌の臭いがしないところが生えているポイント率が高いです。

条件3: 松茸の縄張り……松茸はキノコなので菌で繁殖します。菌の活動範囲は直径2メートル。
1本見つけることができれば、その周辺にまだ生えている可能性が大です！
目を凝らして松茸の縄張りをチェック！

条件4: 山の地形……山の峰沿い 山の斜面に生えていることが多い松茸。

→西→東→北 と峰や斜面を順番に周ってみましょう。松茸は習性として**南東の向き**に生えてきます。



ブナの森でキノコの王様と言えば、ミズナラの大木の根元に生える**マイタケ**です。

味も香りも良くお金になるので、**山のプロ**が採るキノコの代表です。これに当たると、舞い踊って喜ぶことから「舞茸」になったと言われます。

きのこ採りのプロでさえ、マイタケだけは別格で「見つけた」とは言わずに「当たった」というそうです。

マイタケが生えるミズナラは、標高が余り高くなく、**日当たりの良い脇尾根筋～急斜面の崖地**に生えることが多いのです。

「**標高400m～800mを主体**」に、山を立体的に歩き、どんな場所にどんな樹木が生えているのかを体で学ぶことが、マイタケ採りの第一歩です。